

<精神科>

一般（教育）目標

各種精神疾患（症状器質性・中毒性、内因性、心因性精神疾患）を経験し、鑑別診断学と治療方針の策定、予後予測や退院後の治療方針、生活プランの立て方の基本について学ぶ。とくに、うつ病関連疾患（双極性障害、大うつ病性障害、適応障害、悲哀反応）の鑑別診断は、抗うつ薬投与の適応範囲を知るために重要である

とくに身体疾患における精神症状の評価とアセスメント（内分泌疾患、膠原病、脳器質性精神症状）は一般医として必須であるため、精神科コンサルテーションを重点的に学ぶ。医学における精神科の一般性（他の科と共通する点）と独自性（精神科特有の問題点）を念頭に置きながら、臨床上のマネジメントの基本を理解することを目標とする

（具体的）行動目標

(1) 基本姿勢

- ・現病歴、生活歴、家族歴、病前性格、現在症などの適切な聴取と記載を学び、疾患の理解を深める

(2) 診察法・検査・手技

- ・精神科現在症の問診法と記述法の基本を学ぶ
- ・JCSでは認識されず、一般的に意識障害なしとされるが、臨床上きわめて重要な「軽度の意識混濁」概念を症例と成書から理解する。あわせて補助的な検査プランが立てられるようにする

(3) 症状・病態への対応

- ・現在症の評価と鑑別診断の手順を理解することができる
- ・薬物療法の基本的な考え方と、有害作用の予測と対応ができるようになる
- ・精神療法の基本的な考え方を学ぶ

学習方略(1)

- (1) 上級医の指導のもとで入院患者の診療を行う。受け持ち患者数は15人程度
- (2) 上級医の外来診療を何度か観察したうえで、外来初診患者の予診を行い、上級医の本診のあとで指導を受ける
- (3) 週2回の部長回診に参加し、症例提示を行う
- (4) 月1回の心理カンファレンスに出席する

学習方略(2) 勉強会・カンファレンス・学会など

- (1) 月1回の臨床精神医学研究会と、月1回の精神医学古典精読会に出席する
- (2) 興味をもった症例や病態について、上級医の指導をうけながら学習した結果をまとめ、院内あるいは院外の勉強会、カンファレンスで発表する

週間予定（例）※随時、病棟業務、他科コンサルテーションなど

	月	火	水	木	金
午前	病棟業務	病棟業務 回診	病棟業務	病棟業務 回診、 月1回心理カ ンファレンス	病棟業務
午後	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務 第3週 臨床精神医学研究会 第2週 精神医学古典精読会

EV 評価

PG-EPOC による評価方法（研修医⇄指導医）

※研修医は、各分野の研修終了後、速やかにその分野の自己評価を行い、PG-EPOC 評価システムに入力すること